

下山地域

自治力見える化カルテ (1/2)

地域概要 (地域の構造)

基礎データ (平成30年4月1日現在)

【位置図】



【地域特性】

下山地域は、豊田市南東部に位置し、南部に岡崎市と新城市、北東部に設楽町と隣接している。豊田市と合併する以前、岡崎市と交流が強く、合併後も地域住民の生活圏に色濃く残っている。面積の8割を森林が占めており、広大な自然を有している。

地域内には7つの自治区があり、施設が集中して建造されている大沼自治区やダム湖100選に選ばれた三河湖などの観光資源を有する羽布自治区など、自治区ごとに特色が大きく異なる。

人口減少や高齢化が進む中で、平成24年よりトヨタ自動車株式会社の研究開発施設のための用地造成工事を着工。施設の完成による地域の大きな変化に、期待を寄せる声も挙がっている。

面積	114.18 km ²	(12.4%)	[市 918.32 km ²]
人口密度	40 人/km ²	(8.6%)	[市 462 人/km ²]
人口	4,526 人	(1.1%)	[市 424,500 人]
男性	2,253 人	(1.0%)	[市 221,768 人]
女性	2,273 人	(1.1%)	[市 202,732 人]
うち外国人人口	57 人	(0.3%)	[市 16,327 人]
世帯数	1,665 世帯	(0.9%)	[市 178,410 世帯]
平均年齢	50.5 歳	(7.8歳)	[市 42.73 歳]

【人口】

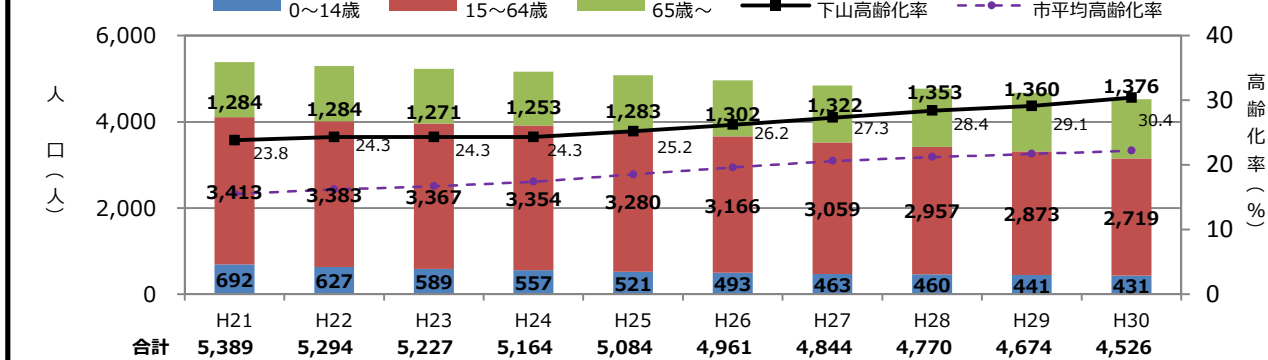
【年齢4区分別人口の推移】 (単位: 人、%)

	H25	H30	増減数	増減率
合計	5,084	4,526	△ 558	△ 11.0
0~14歳	521	431	△ 90	△ 17.3
15~64歳	3,280	2,719	△ 561	△ 17.1
75歳~(再掲)	1,283	1,376	93	7.2
65歳~	808	791	△ 17	△ 2.1
高齢化率	25.24	30.40	5.17	20.47

【人口動態】 (単位: 人)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
合計	△ 123	△ 117	△ 74	△ 96	△ 148
自然増減	△ 32	△ 28	△ 25	△ 29	△ 29
社会増減	△ 91	△ 89	△ 49	△ 67	△ 119

【人口推移】



【自治区データ】

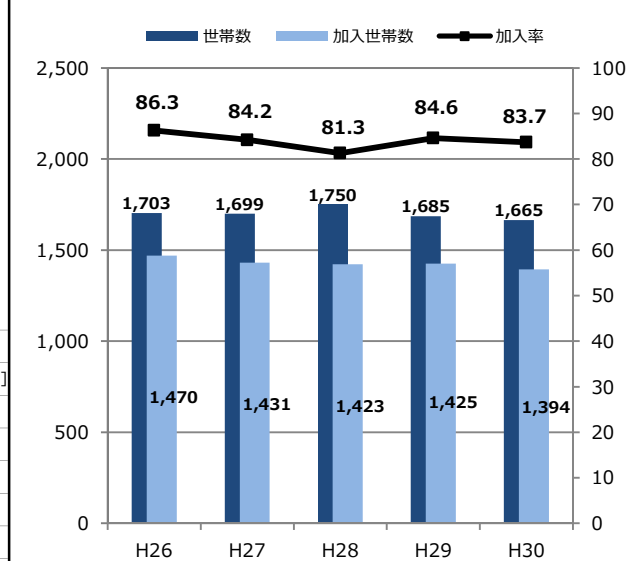
【自治区一覧】

自治区名	世帯数	自治区名	世帯数	自治区名	世帯数
阿蔵	74				
大沼	357				
三巴	69				
田平沢	94				
花山	577				
羽布	104				
和合	119				

【自治区加入率】

加入率	83.7 %	加入世帯数	1,394 世帯
[市 80.9 %]		住基世帯数	1,665 世帯

【自治区加入率推移】 (単位: 世帯、%)



地域自治

出典: H29地域自治システム評価アンケート

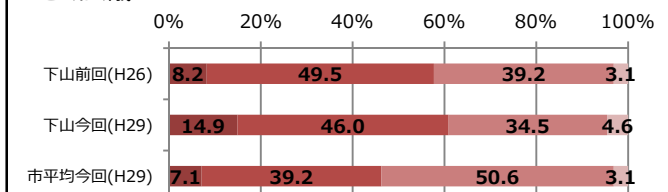
【地域課題】 (地域の課題認識が高い順) (単位: %)

課題・問題点の項目	下山	豊田市	差
高齢者の生きがいづくりの場などの充実	50.5	40.6	9.9
農業・農地を保全すること	46.0	32.5	13.5
公共交通機関の充実	44.8	47.2	△ 2.4
鳥獣害対策の強化	47.1	33.7	13.4
生活道路・交通をスムーズにすること	41.3	47.8	△ 6.5
豊かな自然環境の保全	49.4	45.4	4.0
福祉対策の充実	40.2	35.0	5.2
医療の充実	46.0	48.5	△ 2.5
若年層の定住促進策の拡充	37.9	36.8	1.1
交通安全対策の推進	47.1	54.0	△ 6.9
買い物物の不便の解消	37.9	44.6	△ 6.7
空き家や耕作放棄地の対策の強化	39.0	36.4	2.6
近所での働き口の創出	40.2	30.0	10.2
子育ての支援の充実	41.3	38.5	2.8
観光によるまちづくりの推進	36.8	22.4	14.4
防災対策の充実	37.9	38.2	△ 0.3
防犯対策の強化	35.6	43.5	△ 7.9
住民同士の交流の場や機会の拡充	36.7	39.4	△ 2.7
市街地の活性化と魅力づくりの推進	36.8	32.8	4.0
郷土の歴史・伝統・文化の保存と再生	37.9	35.1	2.8
広場、公園などの施設の整備	29.8	39.0	△ 9.2

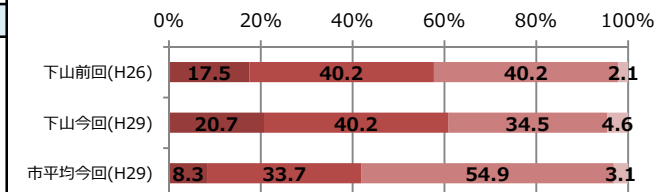
【地域自治システム認知度】

知っている 聞いたことはある 知らない 回答なし

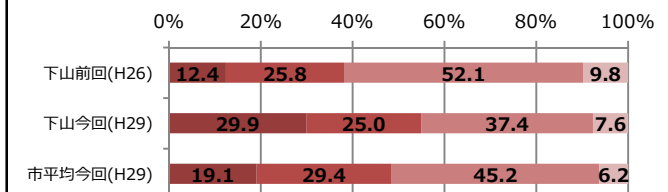
◎ 地域会議



◎ 地域のわくわく事業



◎ 地域の地域予算提案事業



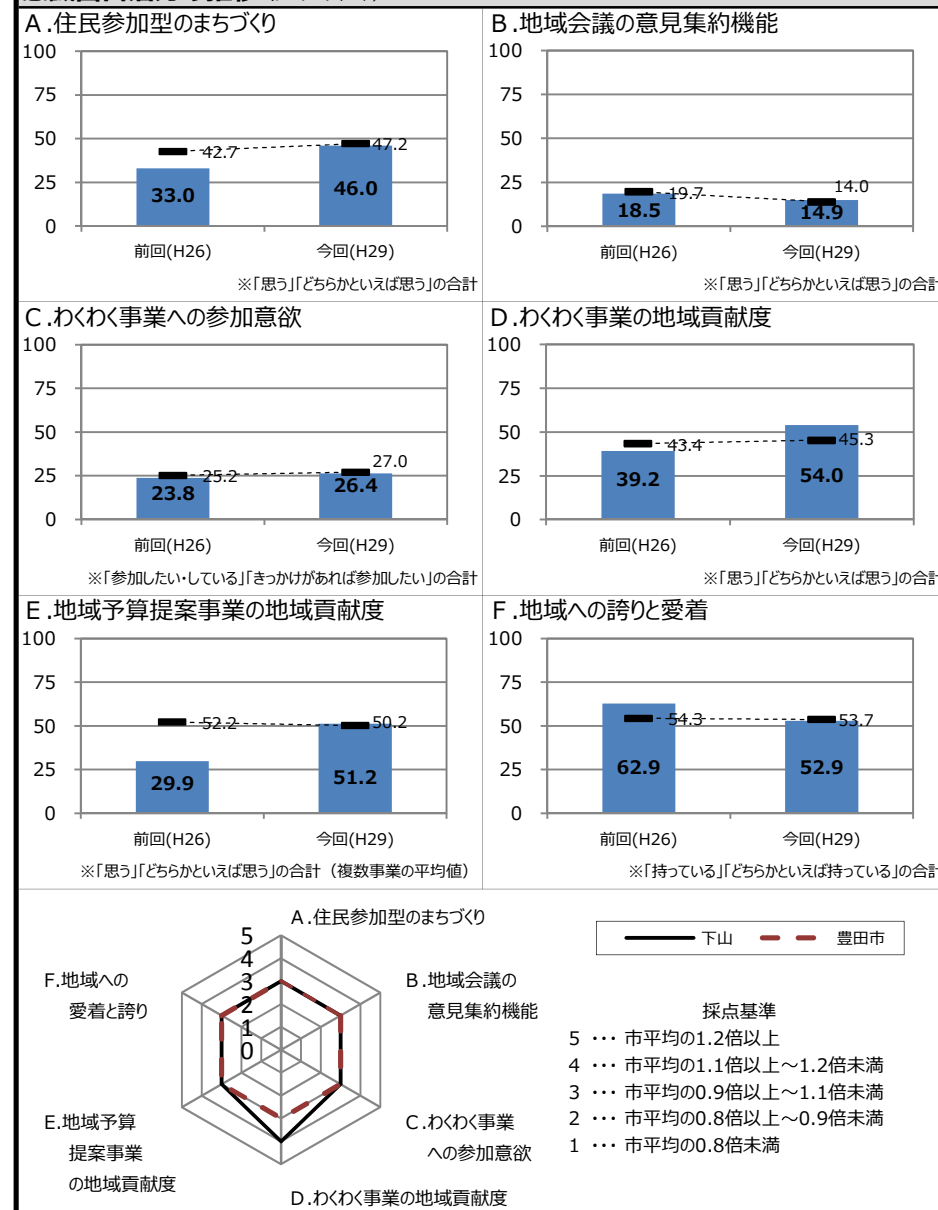
【コメント (地域概要)】

下山地域は、この9年間で人口が△863人(16.0%)の減少となっているほか、高齢化率も6.6ポイント上昇し、人口減少及び高齢化が進んでいる。地域課題に対しては、「高齢者の生きがいづくりの場などの充実」「農業・農地を保全すること」が豊田市全体に比べ課題意識が高い。

意識 (アンケートから診る意識面の自治力)

出典: 地域自治システム評価アンケート

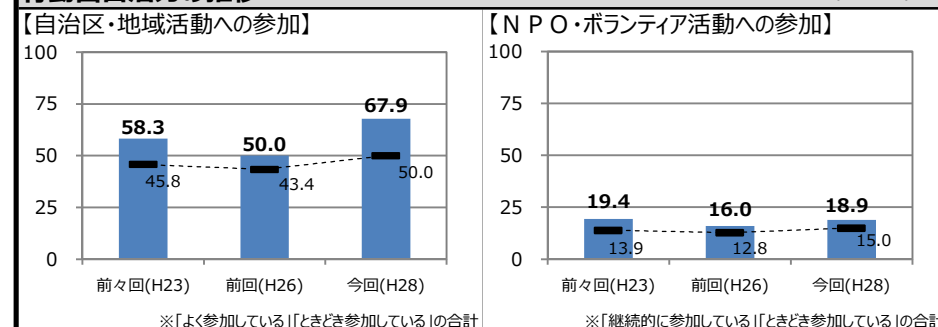
意識面自治力の推移 (レーダーチャート)



行動1 (アンケートから診る行動面の自治力)

出典: 市民意識調査

行動面自治力の推移



【コメント (意識及び行動1)】

下山地区は、草刈り作業や祭礼などの地域活動が盛んな地域であり、全市の平均と比較しても住民の地域活動への参加意識や実際に活動に参加している人の割合も高い状況にある。その一方で人口減少や高齢化の影響から担い手が不足し、住民一人ひとりの負担の増加や特定の人材への負担の偏りが生じている状況が見られる。

自治力見える化カルテ（2 / 2）

行動2（分野別取組から診る行動面の自治力）

健康	交流館自主グループ	- 団体	わくわく事業関連団体	- 団体	交流館自主グループ	- 団体	わくわく事業関連団体	1 団体
	スポーツ推進委員	5 名	ヘルスサポートリーダー	12 名	民生委員児童委員	12 名	お元気ですかボランティア	2 名
健康	高齢者クラブ	5 団体	その他団体	12 団体	ささえあいネット	98 団体	その他団体	1 団体
	活動例：【下山地区ヘルスサポートリーダー】健康づくり講座や地域のイベント時に健康チェックを行い、地域内に健康づくりを浸透させるべく、活動を行っている。定例会や自主活動では、健康レシピによる食事を提供している。				活動例：【大沼ボランティアーズ】地域内の課題の解決策の1つとして、ボランティア組織のしくみ構築、ボランティアスタッフの募集とボランティア活動を行っている。			
コメント：ヘルスサポートリーダーを中心に、健康づくりを浸透させる活動が行われている。				コメント：市内でも希少なボランティア組織が数団体あり、地域自治活動が行われている。				
観光・産業	交流館自主グループ	- 団体	わくわく事業関連団体	- 団体	交流館自主グループ	7 団体	わくわく事業関連団体	2 団体
	その他団体	3 団体	-	-	その他団体	4 団体	-	-
活動例：【三河湖共栄会】三河湖周辺の観光促進を目的に組織された任意団体。毎年6月には『三河湖ウォークラリー』を開催し、地域内外から約1,000人の参加がある。三河湖周辺の環境整備を年3回実施。その他にも下山地域の名物『五平餅』の知名度向上のために、 Mascotキャラクター『五平マン』を制作するなど、活動の幅は広い。				活動例：【大沼雅楽会】昭和26年下山村の有志3名が岡崎市大樹寺の楽人より免許を受けて師範になったことで始まった。昭和52年には下山無形民俗文化財に指定される。現在は、伝統的な雅楽の保存と後世に伝承することを目的とし活動を行っている。				
コメント：三河湖に観光名所や店舗が集中しているため、三河湖中心に活動が盛んである。				コメント：豊田市無形文化財に指定されているものがいくつもあり、それぞれ団体が後世へ伝えるための活動が行われている。				
環境・景観	交流館自主グループ	1 団体	わくわく事業関連団体	4 団体	交流館自主グループ	- 団体	わくわく事業関連団体	2 団体
	その他団体	20 団体	-	-	自主防犯団体	7 団体	自主防災会	7 団体
活動例：【土々目木クラブ】土々目木川の景観整備に加え、川に面した通学路の安全確保も実施している。植樹した花木を維持しながら、同時に子どもたちの通学路やウォーキングコースとしての環境整備も行われている。				活動例：【豊田市消防団第8方面隊】下山地区を管轄し、4つの分団から成る。毎年6月には、合同訓練会を実施。日頃の訓練の成果を披露している。				
コメント：わくわく事業を通じて、各自治区で景観整備が積極的に行われている。				コメント：災害時における対応について、消防団を中心に訓練しており、対応できるように自主的な活動が行われている。				
子どもの健全育成	交流館自主グループ	- 団体	わくわく事業関連団体	3 団体	交流館自主グループ	2 団体	わくわく事業関連団体	- 団体
	主任児童委員	2 名	放課後児童クラブ	2 団体	その他団体	- 団体	-	-
活動例：【下山わくわくファーム】子供たちが体を動かし自然と学ぶコミュニティ広場やヤギのレンタルによるエコ除草などを実施。 【ともえクラブ】地域からの強い要望で平成28年に下山地区で2つ目となる放課後児童クラブが誕生。				活動例：【書架係】下山交流館図書室の利用促進のための活動を実施。利用しやすい図書室にするため、部屋の改造などを検討している。				
コメント：移住者の方や女性の方の要望により、新たな事業が生まれている。				コメント：自治振興の活動母体は、非常に少ない。				
（その他）他振1興（）	【しもやま再来プロジェクト】下山地域を訪れるサイクリストのために、豊田市産の木材を使用したサイクルスタンドの設置をはじめとした活動を行っている。自転車を通じて、下山地域の楽しさをPRしている。				【里楽暮住しもやま会】平成23年、地域の活性化や定住促進を目的に結成。地域の魅力や空き家・空き地の発掘や情報発信、定住促進のための婚活イベント「しもコン」などを実施し、地域主体の取組を行っている。			
	コメント：地域資源を生かした活動を行っている。活動範囲も地域内外問わず実施しており、下山のPRに繋がっている。				コメント：地域予算提案事業だけでなく、地元主体で定住や移住について検討がなされている。			

【コメント（行動2）】

下山地域は、広大な自然に恵まれた地域であることから、住民の環境や景観整備に対する意識も高く、活動団体数もわくわく事業関連団体や交流館自主グループ等を中心に多い傾向にある。また、古くから伝わる伝統や文化も大切にしており、これらの保存や後世への伝承についても活発的な活動が行われている。さらに、消防団活動が盛んな地域であり、地元の催しなどへも活躍している。一方、高齢化による担い手不足が危惧されている団体も多い。

行動3（事業の展開から診る行動面の自治力）

【わくわく事業実績】										
事業分類	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
①保健、医療、福祉の推進								1	2	1
②地域の伝統、文化、郷土芸能又はスポーツの振興	3	1			1	1	3	2	3	2
③安心・安全な地域づくり	1	1			3	5	5	3	2	
④地域の生活環境改善、景観づくり 自然環境保全	5	5	3	5	4	4	4	5	7	6
⑤子どもの健全育成		1						1	2	1
⑥地域の特性を生かした産業振興										1
⑦地域づくりに有効な助言や提案を受けるための事業										
⑧その他個性豊かな住みよい地域社会を構築するための事業		1								1
事業件数（件）	9	9	3	5	8	10	12	12	16	12
実績額（千円）	3,637	2,598	510	1,540	2,779	3,978	3,435	3,676	4,918	5,000
※H30は、平成30年7月31日現在										

【地域予算提案事業実績】

事業名	事業分類	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
子育て支援環境づくり事業	自治振興	269									
食による地域活性化事業	自治振興	220	171	171	154						
産直による地域活性化事業	農業振興		613	104							
三河湖畔の景観アップ共働事業（三河湖畔美緑向上）	観光交流	11,770	14,659	10,846							
しもやま住んでみりん定住促進事業	定住対策	5,242	533	57	221	32	234	130	1,056	906	
文化を守り語り継ぐ香恋の里づくり事業	文化活動						22	2,328	1,503		
『香恋の里しもやま』スポーツ事業	観光交流								5,580	4,752	7,685
『香恋の里しもやま』鯉恋物語事業	観光交流									106	1,736
下山の親しむ木、遊べる森づくり事業	自治振興									384	3,513
下山地区支障木伐採事業	交通安全										6,156
実績額（千円）				15,467	11,057	221	54	2,562	7,213	6,298	19,996
※H30は当初予算額											

【コメント（行動3）】

下山地域は、自然環境に恵まれており地域住民も環境整備への意識は高い。わくわく事業の事業分類も「地域の生活環境改善、景観づくり 自然環境保全」の割合がここ10年間で50%を占めている。地域予算提案事業でも、支障木伐採事業を新設し、地域の生活環境の改善に努めている。また、地域課題として認識が高い「観光によるまちづくりの推進」について、三河湖も含めた下山地区全体の取組が必要となってくる。

総評

下山地域は、自治区や地域活動への参加率が高い。その背景には、住民の地域への誇りと愛着が高いことが要因となっており、環境整備や文化・歴史の保存や伝承について活発な活動が見られる。地域課題については、高齢者対策や農業に関することが上位になっており、農山村特有の課題が顕著に表れた。これらの地域課題は、住民のみもしくは行政のみで解決を図ることが困難なものが多く、住民と行政が一緒になって課題解決する取組が必要になってくる。しかし、下山地域は共働によるまちづくりや地域自治システムが浸透していないことが意識調査から判明しており、わくわく事業や地域予算提案事業を立案・計画・実施するだけでは課題解決がなかなか見込めない。地域自治システムが設立されて10年たった今、下山地域の現状に合った『共働』について考察し、実施することが地域振興業務に求められる。